



九条の会. ひがしなだ ニュース

第 67 号

2015 年 8 月

事務局 西谷利文 Tel 080-1485-5603 E-mail nishi-t@hm.h555.net



私のひとこと

国民は「戦争法案」を許さない

丹羽めぐみ

私の誕生日は8月15日、終戦記念日です。また、母は朝鮮からの引き揚げ者。多くは語りませんが、帰国前後の苦労は大変なことだったようです。広島・長崎・終戦の日、8月は母娘でテレビ画面に見入っていました。

憎み合ってもいない同士が殺し・殺される「戦争」は絶対イヤ。武器産業を中心とした、大企業だけが得をする、戦争という「事業」で、地球資源を食いつぶすことは、許されません。現在、戦争で失われている資源を活用すれば、どれだけ世界は潤うことでしょうか。戦争準備の法律より、「紛争を戦争にしない」外交能力を磨くことが大切です。

安倍政権は、国会の会期を大幅に延長して、「戦争法案」を通そうとしています。国民の反対は、それを許さないでしょう。その国民のひとりとして、キッチリと意思表示していきたいと思います。殺されるのもイヤですが、殺すのはもっとイヤですから。

(住吉地域九条の会)



8・2 講演の準備着々と

帰国1世の大中さんも体験談を

8月2日(日)は、浅野慎一・神戸大学教授らによる、戦後70年特別企画「中国残留日本人孤児は今～戦争と「戦後責任」を問い直す」の開催日です。会場は東灘区民センター8階第1会議室、講演は午後2時から。

講演の準備が着々と進んでおり、講師には、浅野教授のほか、中国からの帰国残留孤児1世・大中はつゑさん(78歳)が、京都・福知山から駆けつけてくれることになりました。大中さんは、日本語が不自由ながらも、自分の体験を自分の言葉で語ってくれます。

こうした帰国孤児たちを支えているのが、中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会。支援する会は、中国帰国者と市民をつなぐ交流誌「有隣通信」を年4回、800部ほど発行しており、最新号で、今回の講演企画を紹介し、関係者に参加を呼び掛けています。

かつて、裁判で闘い、勝利和解へと導いた、当時の弁護団からもメッセージをいただける模様です。



70年ぶりに疎開地・出石を訪問 暖かい歓迎で、つらい思い出も一変

米倉 澄子



今年の2月、男性の声で突然、電話がありました。「NHKテレビでみたが、出石へ集団疎開してきた子どもをいじめた張本人は、僕です」とのこと。その後、寄宿していたお寺や学校、山や川の写真に添えて「ぜひ出石に来て下さい」と書かれた手紙を貰い、6月16日、仲間4人と懐かしの出石行き決行となりました。

お電話を下さり、70年ぶりにお逢いした「ガキ大将」の福富さんは、とても穏やかなお爺さん。お世話になったお寺・滋眼寺（じげんじ）の門前では、大勢の拍手に迎えられ、入り口には「おかえりなさい、『西郷国民学校』のみなさん」の垂れ幕。もう胸がいっぱいになりました。

当時の住職ご夫妻のお墓参りをした後、思い出話に花が咲き、お寺から歩いて寺坂小学校へ向かうと、ここでも「おかえりなさい・・・」の歓迎ぶり。

1本の電話から70年ぶりの出石訪問となり、暖かい歓迎で、つらい、悲しい思い出だった出石町桐野の思いが一変したのです。

(国民学校と学童疎開を考える会理事)

九条の会訪問記（その42）

三田・九条の会

「松元ヒロ」ライブで活動再開 平和を笑いで考えよう

2008年ごろから活動が停滞し、休止状態に近かった三田・九条の会が、活動を再開しています。安倍政権が「集団的自衛権の行使容認」を閣議決定し、「戦争する国づくり」へと暴走する中で、「再開して、頑張ろう」の声が高まり、昨年10月に再会の事務局会議を開催。12月には、①2015年6、7月頃に「松元ヒロ」ライブの開催②事務局会議の毎月開催——などを決め、今年4月には三田市まちづくり協働センターに再び団体登録して、“市民権”を回復しています。



再開第1回目の記念イベントは、「震災20年、戦後70年。平和を笑いで考えよう」と銘打って、7月12日に「松元ヒロ 痛快ライブ」。カトリック系の九条の会・鳳仙花Gと共に、開催しました。

2006年6月、教員、医師、税理士、住職ら30人の呼びかけで結成。講演のほか、映画上映会、パネル展、食事・懇談会、バザーなど多彩な活動が特徴です。

『自由・権利は、不断の努力で』

柳田 洋

私の少年時代には、小学校の運動会の後、地域の青年団が運動場に、孟宗竹を二本立て、幕を張って、映画会をしていました。娯楽物の前に、記録映画を上映するのです。

米軍が硫黄島を囲み、ロケット砲の艦砲射撃を、山の形が変わるまで行うのです。夜空に、光の筋が延々と、島に吸い込まれていくのです。沖縄では、ガマに向けて火炎放射器の炎が放射され、断崖から次々と、婦女子が海に向かって身を投げていくのです。

少年時代の心に焼き付いた戦争への恐怖は、やがて、学生時代に「聞けわだつみの声」を読むことで、自由や権利を奪い、人間性を破壊していく戦争を二度と繰り返してはならない、いま自分にできることをしなければ、と思うようになりました。

憲法12条は、「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなくてはならない」と、私たちに呼びかけています。戦争が何をもたらすのか、もっとリアルに見つめなくてはなりません。

平和と民主主義の世の中で、はじめて社会保障制度が成り立つのです。

(兵庫大学教員、兵庫障害者連絡協議会会長)

東灘にも憲法共同センター

7月18日、結成総会に続き宣伝行動

待望久しかった「憲法改悪ストップ！東灘憲法共同センター」（略称 東灘憲法共同センター）が7月18日、ついに結成されました。

東神戸医療互助組合、新日本婦人の会東灘支部、東灘生活と健康を守る会を呼びかけ団体として準備が進められていたもので、個人加盟の「九条の会.ひがしなだ」に対して、団体加盟の「東灘憲法共同センター」が、“車の両輪”となって、憲法を守り・活かし、戦争する国づくりを許さない運動を、ともに進めていくことになりました。11団体が加盟。



結成後は「アベ政治を許さない」

第1部の「憲法改悪ストップ兵庫県共同センター」津川代表の講演に続いて、第2部の結成総会では規約や運営体制などが提案・了承されました。代表には「神戸健康共和会」理事長藤末衛さん、事務局長には「東灘生活と健康を守る会」小谷正男さんが就任。広範な市民・諸団体の共同を広げ、学習・宣伝・署名などによって「戦争する国づくり反対の世論を広げる」ことなどを、当面の重点としています。総会終了後さっそくJR住吉駅で署名宣伝行動を行い、「アベ政治を許さない」ポスターを掲げました。

「日本と原発」を考えよう

機会があり、福井県の小浜湾から大飯（おおい）原子力発電所を、外見だけですが、見ることができました。地震大国・日本に54基もの原発（原電）があるといえます。福島が現在、ああいう状態ですから、今は何基なのでしょう？ 建設中の原発もあるようです。

日本は経済優先をしすぎている、と思います。多様な暮らし方があっていい！それもエコの方が、未来の子供たちに、美しい日本を残せるのではないのでしょうか？

折しも河合弘之監督（弁護士）が作った「日本と原発」という長編ドキュメンタリー映画が、あちこちで自主上映されています。いま私達は、もう一度、豊かさについて考える分岐点にきているのかもしれない。

久家登志子（魚崎南町在住）

催し物案内

8・15平和のつどい

日時：8月15日（土）13：10～
場所：日蓮宗妙法華院（兵庫区永沢町）
第1部：DVD「9条を守るために」上映
第2部：講演「戦後70年と原水爆禁止運動」
講師：富田宏治・関西学院大学教授
主催：兵庫の「語りつごう戦争」展の会
資料代：500円（高校生以下無料）
（※戦後70年特別展示：8月13日～15日）

市民学習会

「日本人と戦争のこれから」
日時：9月6日（日）14：00～
場所：兵庫県保険医協会5階会議室
講師：伊勢崎賢治・東京外国語大学教授
主催：九条の会・兵庫県医師の会
資料代：500円

編集後記

☆7月16日は、「安保法案」が衆議院で強行採決された“歴史に残る日”になりました。この日国会正門前では終日抗議行動が繰り広げられ、前日の15日には特別委員会の強行採決に抗議して、10万人が国会を取り囲んだと伝えられています。

☆神戸に於いても、この「安保法案」の廃案を求めて、6月21日には9000人が神戸東遊園地を埋め尽くした兵庫県弁護士会主催の大集会が開かれたことは記憶に新しいところです。

☆また、7月17日には、神戸文化ホールにおいて、前進座の芝居「南の島に雪が降る」が公演されました。この芝居は、太平洋戦争の末期、ニューギニアにおいて、飢えと病気に苦しめられながら、生きる希望を芝居に託した兵士たちの実話をもとにした物語であり、この日は、台風11号の襲来による雨の中を芝居を観に来られた500名を超えるみなさんに大きな感動を与えたことと思います。

☆日本を「戦争する国にしてはならない」という闘いは、これからです。